

序

65歳男性。2時間前より胸背部痛を認めて夜間に救急車で来院した。私が初期研修を修了して数年経った頃に経験した症例である。顔面苦悶状、血圧はやや高め。心電図検査、心エコー検査、胸部CT検査などを行ったが、診断を確定できなかった。今までに経験したことのない症例なのか、検査で何か見落としがあるのか、極めて困った症例であった。細かく病歴聴取すると、前日飲酒して嘔吐があったことが判明し、ガストログラフィンを用いた食道造影にて特発性食道破裂と確定診断され、緊急手術となり、ことなきをえた。

本書は、救急に携わる若手医師（特に初期研修を終えた後期研修医）や看護師を対象としている。上記のような胸背部痛を主訴として来院された場合に、どのような疾患を疑って鑑別していくべきか、また診断確定後どのような初期治療が必要か、などについて詳しく解説した。臨床の最前線で活躍している各分野の専門医に、症例呈示を中心とした執筆をお願いしたが、鑑別や診断のポイント、初期治療の進め方が手に取るようにわかりやすく記載されている。胸背部痛に関することはすべて網羅されており、今までにこのような実践的な教育書は存在しなかったといつても過言ではない。

学び方としては、冒頭からすべての部分を読み破していただければ、十分な知識が身に付くはずであるが、そのようなまとまった時間の取れない場合は、問題症例に遭遇した場合に該当する部分をチェックしたり、あるいは鑑別に困ったときに見逃しのないように常に手元において学んでいただいても良いと考えている。救急外来やICU・CCUでは必携の書となるであろう。

本書が若手医師や看護師の知識・理解を深め、問題解決能力の向上に役立ち、最終的に良好な医療が患者に提供されることを切に願っている。

2012年2月

石川康朗
森脇龍太郎